

インド最西端の地グジャラート 未だ見ぬインドへ



インド西部に位置するグジャラート州は、パキスタンとの国境に面した最西部の州として古代より貿易で栄えてきました。BC2900年には既に文明が開化しており、エジプト文明と共に最古のインダス文明が栄えた地でもあります。

グジャラートは、インド独立の父ガンジーの出身地であり、英国植民地に抵抗した「塩の行進」もグジャラートから始まりました。更には、インド工業化の父タタや現首相のモディ氏の出身地としても知られています。

一般的に、日本の大手ツアーでは、デリー、アグラ、ジャイプールといった観光都市を中心に巡る事が多く、グジャラートを巡る旅は未だ一般的とはいえません。然しながら、乾季になると広がる塩の砂漠や、希少なインドライオンの生息する公園、粘土質の土壤により奇跡的に完璧な状態で保存された女王の階段ラーニー・キ・ヴァーヴ (Rani ki vav) 遺跡 や4500年前に栄えたインダス文明のロータル遺跡等、世界的に優れた世界遺産も多く、独自の生活習慣を守りながら暮らす少数民族など多くの魅力がある事でも知られています。

そのため、世界中からこの地を訪れる写真家が絶えず、インドで最もフォトジニックで素晴らしい魅力の溢れた州のひとつといえるでしょう。

今回のツアーでは、これら多彩な魅力に溢れたグジャラートを専用車で巡りながら、それぞれ異なる被写体を撮影する事ができます。又、貴重な世界遺産の遺跡群や砂漠に暮らす人々、野生動物等、写真撮影以外の目的の方にとっても楽しめる内容となっております。

道中は、プロ写真家による撮影指導も含まれておりますので、初心者からハイアマチュアの写真家にとっても魅力的な内容といえるでしょう。



インド&グジャラートの魅力

日本の国土の9倍の広さを誇るインドは多様性に溢れています。北部は標高7,000級のヒマラヤ山脈を抱くチベット文化圏に属し、西部は広大なタール砂漠が広がり、野生の虎が生息する東部ベンガルの密林とその魅力は尽きる事はありません。

様々な伝統芸能の宝庫の南部に、遺跡の点在する中部デカン高原、ガンジス河沿いにはヒンズー教の聖地が点在し、言葉や民族、宗教と多くの多様性に溢れています。州を越えると言葉も法律も異なり、まるで違う国に来た印象を与えます。

タージマハルにカレーとターバンという、多くの日本人が抱くインドのイメージは、外国人が日本に対して抱く「富士山、寿司、芸者」と変わらぬステレオタイプの偏見ともいえるでしょう。

日本で人気のインドツアーの殆どが、これらステレオタイプの憧憬を満たす3つの観光地(デリー、アグラ、ジャイプール)を巡る旅が殆どです。これらの観光地では、旅行者相手のトラップも多く、観光化された印象が残る場所といえます。

【インド=ぼったくり】というイメージの殆どは、これらの観光地に起因しているといえるでしょう。

一方で、大手ツアー会社の催行が少なく、訪れる旅行者が比較的少ない地域では、その殆どが旅行者に対し温かく、多くの人々は朴訥で温厚に接してくれます。特にグジャラート州は、これら外国人旅行者が最も少ない州のひとつであり、インド本来の姿が残る地域のひとつです。

治安が良く、多様性に溢れたグジャラート州

グジャラート州はそんなインドを凝縮したような地域です。年間6-7%の経済成長を続けるインド経済をけん引しているのも、グジャラート州の特徴です。州都アフマダバード周辺には、外資系の企業を中心に工業化が進み、インドで最も豊かな州としても知られています。インド最初の高速鉄道も完成間近で、JR東日本の東北新幹線「はやぶさ」型E5系がアフマダバード ムンバイ間に投入される予定です。

一方で、カッチ地方に足を延ばすと、中世から変わらぬスタイルで生活する少数民族が多く住んでいます。彼等の紡ぐ手織りのテキスタイルは、その繊細な意匠や技法が世界的にも評価され、故安部首相の訪印時にはモディ首相から贈呈された事でも知られています。

また、古代から交易地として繁栄していた為、4500前のインダス文明の遺跡や、10世紀に栄えたヒンズー王朝の遺跡【女王の階段井戸ラーニー・キ・ヴァーヴ】は世界的にも非常に貴重な遺跡であり、奇跡的に完璧に保存された形で発掘されました。壁面に数千もの彫刻が施された世界でも無二唯一の遺跡です。これらヒンズー王朝により開花された文明は、アンコール遺跡やポロブール遺跡の起源でもあります。

又、グジャラート州はインド屈指の自然の宝庫でもあります。絶滅危惧種のインドライオンが生息する地域としても知られており、珍しい野鳥やフラミンゴの大群等、希少な生物を見る為に世界中から多くの人々がその姿を見ようと訪れに来ます。

もともと、グジャラート州は観光化には消極的でしたが、近年は海外からの旅行者が徐々に訪れるようになり、少しずつ観光化への舵をとり始めています。

グジャラート州の知名度が上がってきたのも、この地を撮影した写真家達の影響が強いといえます。写真家にとって、インドは素晴らしい被写体に溢れていますが、特にグジャラートのカッチ地方で撮影された写真には、色彩に溢れた民族色の強い作品が多く、これらの素晴らしい作品からインスパイヤされて訪れる人々が年々増えています。

これら古き良きインドの憧憬を凝縮したグジャラートも、高速鉄道の開通や経済の発展に伴い、急速に観光化されていく事は避けられない必然といえるでしょう。

旅先には【旬のとき】というものがあります。バンガラデシュの混雑列車のように、地球の歩き方の表紙になるような象徴的な情景も、時代とともに変化していき、2023年を目途に殆どその姿を見る事ができなくなってきました。未だ外国人旅行者に対して未開のグジャラートも時代と共に急速に変化して行く事は間違いありません。

独自の文化を保ちながら、中世と変わらぬ生活続ける少数民族も、数年後も同じ生活続けている保証はありません。彼等に近代的な文明社会での生活を送る事を侵害する権利は誰にも無く、これらの貴重な文化や習慣は、失われていく前に記憶や写真に残すしかありません。



ラーニー・キ・ヴァーヴの彫刻群

デリー観光を取り入れた日本からの具体的な日程(例)

※ツアーの責任範囲は16日アフマダーバードから21日までとなります。
アフマダーバードまでの航空券、デリーでの滞在費は全て実費となります。

日時	日程表	移動	ホテル
14-Feb	成田発マレーシア航空利用 MH89 NRT KUL 1005 1700/ MH190 KUL DEL1850 2150 デリー到着後タクシーで市内へ		デリー
15-Feb	デリー観光 (終日自由行動)		デリー
16-Feb	インディゴ (IndiGo)6E6475でアフマダーバード着(DEL AMD0720 0845) 専用車でアフマダーバード市内(空港)発 途中、サバンナに暮らす人々を撮影しながらカッチ地方の州都ブージへ ブージ到着後、市内観光。マハラジャの宮殿アニナマハル等	350km(6.0h)	ブージ
17-Feb	カッチ地方に住む少数民族の村々を巡ります。 伝統的な民族衣装に身を包んだ人達や工芸品や刺繍の工房を訪ねます。		ブージ
18-Feb	午前中、少数民族の村々を巡ります。 午後ホワイトラン(白砂漠)のツーリストキャンプにチェックイン 夕方ビューポイントから白砂漠のサンセット撮影 午後、インダス文明のドラビラ遺跡を経て小カッチに面したバジャナ村へ移動 夕方ビューポイントから白砂漠のサンセット撮影		カッチ
19-Feb	早朝、砂漠でサンライズを撮影 ホワイトランからバジャナへ移動。途中インダス文明の遺跡【ドーラビーラ】を見学 夕方、小カッチ湿原でジープサファリとサンセット	360km(6.0h)	バジャナ
20-Feb	早朝、小カッチ湿原でサファリとサンライズ 午後、バジャナ周辺の少数民族の村々を訪問		バジャナ
21-Feb	バジャナからアフマダーバードへ移動 途中、【女王の階段井戸ラーニー・キ・ヴァーヴ】と【太陽神のスリヤー神殿】を巡りアフマダーバード市内観光(アダラジの階段井戸、ジャミー masjid等) 空港へ送迎 解散 エアーインディア AI836 AMD DEL1835 2020(もしくは他のフライト)でデリーへ マレーシア航空で成田へ MH191 DEL KUL 2310 0705+1	250km(6.5h)	
22-Feb	マレーシア航空 MH70 KUL NRT 0940 1730		

※インドVISA取得後の最初の入国地は政府により定められた空港からとなります。アフマダーバード空港から入国はできません。(2回目以降はOK)

※19-20Feb の宿泊地は手配上Zainabad村になる場合があります。

ツアー全体の俯瞰図(イメージ)



※上の移動ルートは現地の状況により異なる場合があります。

お薦めポイント

- ①専用車での移動（お手洗い、休憩等臨機応変で対応します）
- ②古代インダス文明の遺跡と奇跡のヒンズー遺跡階段井戸、太陽神殿 3つの世界遺産
- ③ホワイトラン 白砂漠でのキャンプ体験
- ④まるでアフリカ！サバンナに住む少数民族の村巡り
- ⑤インドテキスタイルの最高峰 グジャラートテキスタイルのお土産天国
- ⑥プロ写真家による撮影指導（希望者のみ無料）

ツアー代金に含まれないもの

- ①ホテルで提供される朝食以外のお食事とお飲み物
- ②各地施設等での入場料金等
- ③チップ及び土産代等
- ④インド観光ビザ取得代金
- ⑤アフマダーバードまでの移動費（航空券&ホテル代等）

インドビザ

インド入国には事前に観光VISAの取得が義務づけられています。

インド観光VISAには3種類ありますが取得には注意が必要です。

一番お薦めは、e-Tourist VISAで、クレカを使ってオンラインで取得可能です。このVISAは取得後5年間有効であり、大使館に行く手間もありません。

但し、申請には必要事項の記載が多々あり、たとえ完璧に記入してもインド側のサーバーの不具合で提出が受理できない事も時々あります。もし申請が困難な場合は、代行業者に依頼する事をお薦めします。（約9,000-10,000円）

又、オフィシャルのインドe-Tourist VISAを装った偽装サイトも多々存在します。高額の代金をカードで引き落とされる被害が頻発しておりますので十分に注意が必要です。

インドe-Tourist VISA申請オフィシャルサイト

<https://indianvisaonline.gov.in/evisa/tvoa.html>

記入例はWEB上で検索して下さい。

2023年・インドの観光ビザの種類

インドの観光ビザには3種類あります。

下記の表を参考にして見てください。

ビザの種類（2018年1月現在）	申請方法	ビザの有効期限	料金	ビザ取得に必要な日数
TOURIST-VISA	オンラインで申請後に、インド大使館または郵送で申請	申請日から180日間マルチプルビザ	1250円	3営業日後に発行
e-TOURIST-VISA	オンラインで申請後、指定したインドの空港で発行	入国から最長179日の滞在が最大5年	日本国籍の場合25ドル（paypal、クレジットカード決済）	申請後72時間以内に発行
ARRIVAL-VISA	申請書に記入しインドの決められた空港で申請	入国から最長60日の滞在が2回、再入国が1回	2000ルピー（同価値の外貨でも支払い可能）	インドの空港にて発行

ARRIVAL-VISA(到着ビザ)について

デリーやムンバイ等の主要都市の空港では、日本旅券保持者に限り到着VISAが取得可能です。

事前にインドe-Tourist VISAを取得しなくても空港で取得可能なので、インドへの再入国の予定の無い人には便利ですが、空港での担当者が不慣れな場合、空港でクレカ決済に不具合がある場合等、取得までに1時間以上かかる場合もあります。

僕の場合、ムンバイ、デリー空港では問題無くスムーズに取得できましたが、コルカタでは相当手間取り3時間以上を要しました。

e-Tourist VISAを申請途中で諦めてARRIVAL-VISA(到着ビザ)に変更はできない！

オンラインでe-Tourist VISA申請を試みるも、記入方法が複雑もしくはインド側のサーバーの不具合等で受理承認ができず、諦めてARRIVAL VISAで入国を試みる事は原則としてできません。

e-Tourist VISAで申請した内容は、途中でインド移民局にデータとして残っています。

データが残っている状態でARRIVAL VISAに切り替える事は出来ません。インド行のフライトの搭乗時にはVISAの有無の確認があります。

搭乗時にARRIVAL VISAで入国する旨を伝えると、その場で照会を行い、e-Tourist VISAの申請途中である事が分ると搭乗を拒否される可能性があります。e-Tourist VISAでの申請を諦める際は、データが残らないように完全にキャンセルするか、申請番号を控えて代理店に依頼する事が望ましいでしょう。

グジャラート州での飲酒について

グジャラート州は禁酒州です。飲酒は法律で禁止されておりますが、外国人に対しては【飲酒許可証】を取得する事で酒類の購入が可能です。



アフマードバード空港内の観光案内所で許可証を取得する事ができます。グジャラート州の酒税は高額なので、ウイスキー等は事前にスーツケースに隠して持ち込んだ方が良いでしょう。

公共の場での飲酒は違法なので、大ぴらに飲む事はできません。

(飲料水のペットボトルに焼酎を入れる等、工夫は必要ですが、明らかに飲酒と分かるような飲み方は慎んで下さい)

ホテルの自室で飲む場合は問題はありません。

アルコールの購入には、制限があります。

ウイスキー1本

ワイン3本

ビール9本

滞在中、これ以上の購入はできません。(許可証取得時にデータが登録され、州内で情報が共有され、規定を超えると購入できない)

基本的に、インドの殆どの州では飲酒に対して非常に不寛容です。

グジャラート州では、特例として外国人に対してのみ飲酒を許可していますが、現地の慣習を尊重し人前での飲酒は控えて下さい。

その他インドQA

①航空券の購入時期について

→航空券の手配は、出発の3か月前頃に値段が決まる場合が多いので、12月以降に手配される事をお勧めします。

②インドへお薦め航空会社は？

→デリーへはJAL,ANA,AIの3社が直行便を就航しています。

直行便で比較的安価なのはAI(エアインディア)ですが、機体が古く比較的遅延が多いのが特徴です。

バンコクやハノイでLCCを乗り換える航空券は安価ですが、乗る継ぎや預け荷物の制限等があります。

LCCは、乗継時のバゲージスルー等ができない場合もあり、その際には一旦乗継地での出入国が必要となる場合もあります。航空券を手配する前には、それらを確認する必要があります。

③インドの治安

→基本的にインドの治安は西欧や米国等に比べると安全といえます。

グジャラート州の治安は良いのですが、デリーやムンバイ等の大都市ではスリや詐欺等の被害もあるので、注意が必要です。

④現地での言葉

グジャラートでは一般的にグジャラート語が用いられていますが、基本的には英語で問題はありません。

⑤飲料水や衛生について

→インドに限らず、水道が飲める国は世界的に殆どありません。飲料水は何処でも売っており1本10-20ルピーで購入できます。

衛生面に関しては、この数十年の取り組みで急速に改善は進んでいますが、それでも他国(特に欧米や日本)に比べると未だ問題は多いのが実情です。安価な屋台での飲食はできるだけ避け、常に手洗いをを行う等気を付けて下さい。

清潔なトイレも殆ど無いので、できるだけホテルやレストランで用を足すように心がけて下さい。

トイレトペーパーも殆ど無いので、携帯用ティッシュ等の持参をお勧めします。

⑥インドの物価

→円安の影響で、日本人が嘗てのように海外で安価な旅を楽しむ事ができた時代は終わりました。

しかし、インドも日本同様にルピー安に苦しんでいます。6-7%のインフレではありますが、それでも日本円換算では他国と比べて未だ物価安の恩恵が受けれる数少ない国のひとつです。

ものにより日本との価格差は様々ですが、タクシーや列車の移動費は日本の1/3~1/5程度。

食事は日本よりもやや安価です。

⑦両替

グジャラート州内での日本円の両替はレートが悪く、できれば避けた方が良いでしょう。(円を扱ってない所もある)

インド国内では、一部の高級ホテルやレストラン、土産物屋を除くと国際クレカが使える場所は殆どありません。

電子決済も進んでいますが、インド国内に口座の無い外国人は、基本的に現金決済が主となります。

ATMも海外発行のカードに対応してない場合が多く、必然的にデリーかムンバイ等の都市で両替する必要があります。

ドルの現金があれば、グジャラートでの汎用性は高いでしょう。

⑧航空会社のテロ対策

→インドの航空会社(インド発の航空会社も含め)では世界的にも非常に厳しいテロ対策を行っています。預け荷物の中に、ラップトップやスマホ、バッテリー等があると検査により没収もしくは搭乗拒否になります。他国では、殆ど問題にならないものも、インドでは厳格に対応される為、十分な注意が必要です

⑨ホテルについて

ホテルに関しては、中級以上(エアコン、ホットシャワー)を目安に手配を行います。超高級ホテル以外では設備に何かしら不具合がある事が多々あります(インド人の性格上メンテに無関心)

勿論、設備の不具合があれば都度対応致しますが、日本国内と同じレベルを期待する事はできません。

⑩お薦めの持ち物

1.日焼け止めクリーム

日中は猛暑となるため、日焼け止めクリームは必須です。日焼けは体力の低下を招き体調不良の原因となります。

2.速乾シャツ

移動の多い旅で速乾シャツは非常に便利です。一晩部屋の中に干せば乾燥するので個人的に旅には欠かせません。

3.蚊取りキッド等

インド、東南アジアでは蚊の対策が必要です。デング熱の媒体にもなるので、キッドやスプレー、蚊よけシール等に対応しましょう。冬になると日本国内での購入が難しくなるので、秋までに購入しておくようにしましょう。

4.スマホ&SIM CARD

現在の旅ではスマホやタブレットは欠かす事のできない最も重要なアイテムです。

インドでは4GのSIMが簡単に入手できます。値段も安価ですが、日本国内で販売されているスマホの一部にはSIMロックされている機種もあります。その場合は、予めロックを解除して海外で使えるように設定する必要があります。

E-SIMは渡航前に申し込む事ができますが、現地に到着後に自分でアクティベートする必要があります。はじめてE-SIMのアクティベートをする方は、その方法が分からずに手間取る方も多いのが現状です。

又、E-SIMの価格は欧州等ではコストメリットがあっても、インドや東南アジアでは現地SIMの方が安価な場合が多くあまりメリットはありません。

5.サンダルとショール

履き慣れた靴の他にサンダルがひとつあると便利です。

又、女性がイスラム関連の名所に入るには髪を覆う為のショールが必要です。インドの旅ではショールは女性にとって必需品です。

6.メモリーカードと予備のリチウム電池&充電器

メモリーカード、充電器や予備バッテリーを忘れる方をよく見かけます。

SDカードであれば概ね現地での調達が可能です。その他のメモリーカードの現地での購入は殆ど絶望的です。